

# 授 業 概 要

平成25年度

群馬医療福祉大学 大学院  
社会福祉学研究科

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

# 目 次

福祉倫理特論 .....	1
社会福祉原理特論 .....	2
社会福祉理論・学説史研究 .....	3
社会福祉経営特論 .....	4
社会福祉法制特論 .....	5
高齢者福祉特論 .....	6
障害者福祉特論 .....	7
児童福祉特論 .....	8
比較（国際）福祉特論 .....	9
福祉心理特論 .....	10
福祉サービス市場特論 .....	11
社会調査特論Ⅰ .....	12
社会調査特論Ⅱ .....	13
社会福祉経営研究・演習 .....	14
福祉事業経営特論 .....	15
福祉施設経営特論 .....	16
人事労務管理特論 .....	17
福祉事業経営研究・演習 .....	18
地域福祉経営特論 .....	19
社会福祉行財政特論 .....	20
地域福祉計画特論 .....	21
地域福祉経営研究・演習 .....	22
ソーシャルワーク特論Ⅰ .....	23
ソーシャルワーク特論Ⅱ .....	24
ケアマネジメント特論 .....	25
ソーシャルワーク研究・演習 .....	26
修士論文研究指導の概要 .....	27

## 教育課程等の概要（平成25年度）

### 社会福祉学研究科 社会福祉経営専攻

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年		2年		担当教員
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共通基礎分野	福祉倫理特論	2		●				中田・鈴木 笹澤 瓜須 田村 中村 黒澤 木下 荒井 木下 川村 大野 瓜巢 白石 中熊
	社会福祉原理特論	2		●				
	社会福祉理論・学説史研究	2			●			
	社会福祉経営特論	2		●				
	社会福祉法制特論		2	○				
	高齢者福祉特論（隔年・H26年度開講）		2	○		○		
	障害者福祉特論（隔年・H26年度開講）		2		○			
	児童福祉特論		2		○		○	
	精神保健特論（隔年）		2	○		○		
	比較（国際）福祉特論（隔年）		2	○		○		
	福祉心理特論		2		○		○	
	福祉サービス市場特論		2	○		○		
	社会調査特論	2		●				
	社会福祉経営研究・演習	2		▲	▲	▲	▲	
小計（14科目）		12	16					
経営分野	福祉事業経営特論		2		○			
	福祉施設経営特論		2		○			
	人事労務管理特論		2		○		○	
	福祉事業経営研究・演習（隔年・H26年度開講）		2	△	△	△	△	
小計（4科目）			8					
地域福祉	地域福祉経営特論		2	○				笹澤 松浦 川村 笹澤
	社会福祉行財政特論		2	○				
	地域福祉計画特論（隔年・H26年度開講）		2	○		○		
	地域福祉経営研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（4科目）			8					
福祉専門分野	ソーシャルワーク特論Ⅰ	2		●				新木 高瀬 國光 高瀬
	ソーシャルワーク特論Ⅱ	2			●			
	ケアマネジメント特論		2		○			
	ソーシャルワーク研究・演習		2	△	△	△	△	
小計（4科目）		4	4					
論文	修士論文研究指導	6		●	●	●	●	1 鈴木
				●	●	●	●	2 中田
				●	●	●	●	3 笹澤
				●	●	●	●	4 荒井
				●	●	●	●	5 大野
小計（1科目）		6						
合計（26科目）		22	36					
学位又は称号	修士（社会福祉学）							

※●は必修、▲は必修演習、△は選択演習

授業科目

福祉倫理特論

担当教員	中田 勝 ・ 鈴木 利定
開講期	1年次 前期
単位	2
学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠（良知）が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体力行を重んずる人を育てることを主眼とする。
講義の内容 (基本的枠組)	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション : 講義内容の説明</p> <p>【第2回】 当校、伝統の建学精神 : 当校の礎と学統</p> <p>【第3回】 〃 : 提言字の解義</p> <p>【第4回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第5回】 当校の教育理念 : 理気説の提言 (1)</p> <p>【第6回】 〃 : 理気一元説の導入 (2)</p> <p>【第7回】 〃 : 提言字の本義</p> <p>【第8回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第9回】 儒教倫理 : 特色</p> <p>【第10回】 儒教倫理 (1) : 特性 (1)</p> <p>【第11回】 儒教倫理 (2) : 特性 (2)</p> <p>【第12回】 家庭生活と倫理の発現 : 倫理思想の体認</p> <p>【第13回】 家庭生活と倫理の発現 : 〃</p> <p>【第14回】 社会生活と倫理の発現 : 同上及び建学精神、教育理念の体認</p> <p>【第15回】 職業と人生 (就業規則と職業倫理を含む) : 当校、諸学部諸学科の顕彰</p>
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。
評価の方法	授業時の出席点 (出欠席回数による) は最高で10点、平常点は最高で5点、期末筆答試験は最高で85点、総合点100点満点となります。
テキスト・参考書	<p>テキスト 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著</p> <p>参考書 随時指示</p>

授業科目

■ 社会福祉原理特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1 年次
単位	2 (必須)
学修目標	社会福祉額の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。
授業計画	<p>【第1回】 授業計画、参考文献、資料収集</p> <p>【第2回】 社会福祉の用語変遷 (福祉概念の発展)</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本前提 (生物、文化社会的面)</p> <p>【第4回】 (人間存在としての生など)</p> <p>【第5回】 (現代社会福祉理念の諸問題)</p> <p>【第6回】 (個の確立)</p> <p>【第7回】 (国家福祉の理念)</p> <p>【第8回】 (人間的理念：人権、個人の尊厳、生命の尊厳)</p> <p>【第9回】 (人間的理念：平等の理念、自由の理念、自立の理念)</p> <p>【第10回】 (愛他理念：理念と展開)</p> <p>【第11回】 社会保障、社会福祉の理念をさぐる</p> <p>【第12回】 20、21世紀の福祉理念</p> <p>【第13回】 わが国の憲法の示す福祉理念</p> <p>【第14回】 行政の示す社会福祉</p> <p>【第15回】 講義のふりかえり</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p>
受講生への要望	
評価の方法	出席状況 %、学習態度 %、試験等 % 予習復習状況 (発言) %
テキスト・参考書	<p>【参考文献】</p> <p>「社会福祉の発見」 あいり出版</p> <p>「生命倫理」 弘文堂</p> <p>その他</p>

授業科目

■ 社会福祉理論・学説史研究

担当教員	瓜巢 一美
開講期	
単位	2 (必須)
学修目標	わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。
講義の内容 (基本的枠組)	<p>絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。</p> <p>その考え方の背景ににんげんらしく生きるための思想（考え方）や実践を取り上げてみる。</p>
授業計画	<p>【第1回】 授業のためのオリエンテーション</p> <p>【第2回】 現実から（考究の）出発</p> <p>【第3回】           〃</p> <p>【第4回】           〃</p> <p>【第5回】           〃</p> <p>【第6回】 福祉学への接近</p> <p>【第7回】           〃</p> <p>【第8回】 人生（生涯生活）と福祉</p> <p>【第9回】           〃</p> <p>【第10回】 福祉の援助と人間福祉の目標</p> <p>【第11回】           〃</p> <p>【第12回】 公共にとって社会福祉学とは</p> <p>【第13回】           〃</p> <p>【第14回】           〃</p> <p>【第15回】 授業の振り返り</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p>
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学問を自らのものにして欲しい。
評価の方法	出席状況 %、学習態度 %、試験等 % 発表等 %
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>国代国次郎「社会福祉学とは何か」 本の泉社</p> <p>杉本一義「人生福祉」 駿河台出版社</p>

授業科目

■ 社会福祉経営特論

担当教員	田村 尚
開講期	1 年次
単位	2 (必修)
学修目標	サービス管理・改善等の実践を理解し、所属組織のサービス管理方法の改善課題を把握できること。
講義の内容 (基本的枠組)	組織の意思決定や経営について深く学び、サービス管理について学習する。そしてサービス管理業務の課題を発見する。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション (講義) (①②該当) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第2回】 法人の理解 (講義) (①該当) 法人の形態、設立と組織体制について学習する。</p> <p>【第3回】 会議運営 (演習) (①該当) 配布する会議マネジメントのチェックリストに基づいて、自組織(学生もしくは教員)における会議マネジメントの課題点をグループで討議する。</p> <p>【第4回】 サービスの評価・管理 (演習) (②該当) 配布するサービス評価・管理のチェックリストに基づいて、自組織(学生もしくは教員)におけるサービスの課題点をグループで討議する。</p> <p>【第5回】 第三者評価 (講義) (②該当) 福祉サービス第三者評価の流れを学習し、その後福祉サービスの第三者評価基準について学習する。</p> <p>【第6回】 苦情解決の方法 (演習) (②該当) 苦情受付業務の流れを説明し、その後リスクマネジメントガイドライン(東京都)の解説を行う。</p> <p>【第7回】 緊急介入事案への対処方法 (1) (演習) (②該当) 財務分析、モラルサーベイ・チェックについて、事例に基づいて学習する。</p> <p>【第8回】 緊急介入事案への対処方法 (2) (演習) (②該当) SWOT 分析について、事例に基づいて学習する。</p> <p>【第9回】 経営管理者の役割 (該当なし)</p> <p>【第10回】 経営理念と経営戦略 (該当なし)</p> <p>【第11回】 顧客の満足 (該当なし)</p> <p>【第12回】 スタッフの満足 (該当なし)</p> <p>【第13回】 業務の管理 (該当なし)</p> <p>【第14回】 健全経営の確保 (該当なし)</p> <p>【第15回】 マネジメント・スキル (該当なし)</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

社会福祉法制特論

担当教員	中村 昭雄
開講期	1年次 前期
単位	2
学修目標	戦後日本の社会福祉政策について、政策と政策過程の視点から考察し、社会福祉法制について理解を深める。主要な社会福祉関係法律・政策について、その成立背景、目的、理念、法制に関わったアクター等を考察し、学修する。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉法制に関する法律・政策について、その成立背景、目的、理念、そしてその成立に関与したアクター（各種団体など）に注目しながら考察し、日本の社会福祉法制の理念、特徴などを明らかにする。理論研究だけでなく、具体的事例研究も平行して進めたい。 なお、本講義は、法の内容そのものよりも、政策過程や立法プロセスの視点からの内容である。
授業計画	<p>【第1回】 現代の社会福祉</p> <p>【第2回】 社会福祉政策とは何か</p> <p>【第3回】 社会福祉・社会保障の理念（1）</p> <p>【第4回】 社会福祉・社会保障の理念（2）</p> <p>【第5回】 社会福祉法制とは何か</p> <p>【第6回】 社会福祉法制の構造（対象者別）</p> <p>【第7回】 社会福祉法制の歴史</p> <p>【第8回】 社会福祉と行政</p> <p>【第9回】 社会福祉と財政</p> <p>【第10回】 社会福祉と主体</p> <p>【第11回】 社会福祉法制の展開（低所得者、子ども家庭）</p> <p>【第12回】 社会福祉法制の展開（障がい者、高齢者）</p> <p>【第13回】 社会福祉法制の動向（1）</p> <p>【第14回】 社会福祉法制の動向（2）</p> <p>【第15回】 後期内容の総括</p>
受講生への要望	授業は講義とゼミ形式で進めるので、主体的、積極的に取り組んで欲しい。
評価の方法	学習態度（発言）50%、レポート50%。
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>福永善秀編『社会福祉の発見』（あいり出版、2009年）、</p> <p>坂田周一『社会福祉政策』（有斐閣アルマ、2007年）、</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉概論』（中央法規出版、2008年）、</p> <p>中村昭雄『新版 日本政治の政策過程』（芦書房、2011年）</p>



授業科目

■ 高齢者福祉特論

担当教員	黒澤 貞夫
開講期	1、2年次 前期
単位	2
学修目標	生活支援論を人間科学の視点から講じる。生活支援の専門性を理論と実践の統合によって体系づけることを目標とする。生活支援は21世紀における社会福祉の新たな思想に基づく福祉制度をふまえて、いかに人間の幸せを実現するかを理念的・実践的な課題をもって考察するのである。そのためには専門性の構成要素であるヒューマニティ（人間性）とサイエンス（科学性）が現実の生活課題の解決にいかにか統合され実践されるかを理論的・実証的に講じる。
講義の内容 (基本的枠組)	講義の内容は、まず社会の現実の認識からである。人びとが老い、病、心身の障害等に起因して生活の支障（困難）を生じていることを認識する。そして生活支援は、人間の尊厳が保持され健康で文化的な生活を享受することの意義と現実の生活課題の解決を図ることについて講じる。そのことは人間科学的な根拠（エビデンス）をもった生活支援について価値・倫理・知識・技術（方法）の視点から講じる。特に講義においては、実践の場面から理論と実践の融合を実証的に講じる。 わが国の福祉制度には、ソーシャルワーク、ケアワーク、ケアマネジメント等の専門領域が存在する。そしてそれぞれの業務の専門的特性を講じる。特に専門領域における保健・医療・福祉との連携・協働の知識・方法についても講じる。これらの専門性と固有の存在理由は人間科学の視点に基づく質的研究によってさらに深められ実証されていくことを講じる。
授業計画	【第1回】 生活支援の理論と人間科学 【第2回】 生活支援における人間科学の意味 【第3回】 生活システムの科学性 【第4回】 人間理解と関係性 【第5回】 人間理解とコミュニケーション 【第6回】 自立支援の基礎理論 【第7回】 ICF（国際生活機能分類）と生活支援モデル 【第8回】 生活支援におけるニーズ論 【第9回】 生活支援の展開方法の科学性～相談：アセスメント 【第10回】 生活支援の展開方法の科学性～生活支援計画・実践・評価 【第11回】 人間科学におけるソーシャルワーク論 【第12回】 人間科学におけるケアワーク（介護福祉）論 【第13回】 人間科学におけるケアマネジメント論 【第14回】 事例による質的研究の方法 【第15回】 事例による質的研究の方法
受講生への要望	講義はテキストと文献を用います。それらを日々予習、復習しておくことが有益です。特に講義等で意味の不確かなところや疑問については、文献を参照し質問などによって自ら学ぶ態度が求められます。
評価の方法	基準：出席点30点、授講態度10点、レポート、定期試験、発表等60点
テキスト・参考書	[テキスト] ・黒澤貞夫著「人間科学的生活支援論」ミネルヴァ書房2010年 [参考書] ・黒澤貞夫著「生活支援学の構想」川島書店2006年 ・黒澤貞夫編著「ICFを取り入れた介護過程」2007年 その他必要な参考書、文献は講義時にその都度示す。

授業科目

障害者福祉特論

担当教員	遠藤 浩 ・ 木下 大生
開講期	1年次 後期
単位	2
学修目標	障害のある人たちの「人生とは？」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行推進の視点から、これまでの障害者政策を顧み、これからの障害者政策を考える。
講義の内容 (基本的枠組)	今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行の推進の視点から、これまでの障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手掛かりとしつつ、いわゆる「コロニー」と称される大規模収容保護施設実現に至る道のり、地域移行への方向転換、障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、障害者自立支援法に代わる新たな総合法制度の検討状況を踏まえながら、今後の地域移行の展開を予測する。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 障害者福祉政策の系譜</p> <p>【第3回】 ノーマライゼーション理念</p> <p>【第4回～第6回】 我が国におけるコロニー実現に至る道のり</p> <p>【第7回】 施設の整備推進と在宅福祉施策の萌芽</p> <p>【第8回・第9回】 地域移行の基盤整備の緩やかな進展</p> <p>【第10回・第11回】 地域移行の実践例を学ぶ</p> <p>【第12回】 施設解体宣言を考える</p> <p>【第13回・第14回】 障害者自立支援法による地域移行の推進</p> <p>【第15回】 検討中の新たな総合法制度と地域移行</p>
受講生への要望	法令、行政資料、審議会答申、関係論文等を引用した講義資料を予め配布しますので、これらをよく読みこなして、自らの考えを積極的に発言していただくことを期待します。
評価の方法	基準：出席点30点、受講態度10点、レポート60点
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <p>「障害者福祉の世界」佐藤久夫・小澤温（有斐閣アルマ）</p> <p>「現代の障害者福祉（改訂版）」定藤丈弘・佐藤久夫・北野誠一編（有斐閣）</p> <p>「再考・ノーマライゼーションの原理」ベンクト・ニリエ（現代書館）</p> <p>「社会福祉政策」坂田周一（有斐閣アルマ）</p> <p>※その他随時紹介します。</p>

授業科目

■ 児童福祉特論

担当教員	荒井 洌
開講期	1、2年次 後期
単位	2
学修目標	<p>日本においては、児童福祉法の成立以来、60年あまりの年月が経過しました。その結果、戦前と戦後の人間生活への尊重の度合いや、子育てのありようについての考え方は大きく飛躍しました。</p> <p>本講では、このことについて、理念的にも、具体的方法についても、世界的な視野で認識を深めたいと思います。</p>
講義の内容 (基本的枠組)	<p>乳幼児保育のを中心として、児童福祉の理念と実際の歩みを、世界史的視野と日本の歴史を辿りながら、注目すべきポイントを押さえることにします。</p> <p>また、現在の日本の状況と、諸外国の状況とに目を配ります。</p> <p>特に、さまざまな点ですぐれた理念と実績を残してきた北欧諸国の諸施策には、大いに注目したいと思います。</p>
授業計画	<p>【第1回】 児童福祉のかなめとしての乳幼児保育  【第2回】 日本における幼児保育の歩み  【第3回】 幼児保育政策に見る世界的潮流  【第4回】 近代史における幼児保育思想の流れ  【第5回】 イギリスの Infant School の系譜  【第6回】 ロバート・オウエンの『自叙伝』を読み解く  【第7回】 ドイツの Kindergarten の系譜  【第8回】 フリードリッヒ・フレーベルの『人間の教育』を読み解く  【第9回】 スウェーデンの Pre-School の系譜  【第10回】 エレン・ケイの『児童の世紀』を読み解く  【第11回】 北欧諸国の保育政策への注目  【第12回】 日本の「保育要領」(1948年) 以来の流れ  【第13回】 子育て家庭支援を理念とする乳幼児保育  【第14回】 生命体としての子どものための園庭と園舎  【第15回】 乳幼児保育に求められる今後の課題</p>
受講生への要望	<p>テキストを前もって熟読し、理解できない点などがありましたら遠慮せずに質問をし、認識を深めるように努めてください。</p>
評価の方法	<p>基準：出席点30点、授講態度10点、レポート、定期試験、発表等60点</p>
テキスト・参考書	<p>〈テキスト〉  ○荒井 洌著『スウェーデン 水辺の館への旅』富山房インターナショナル  ○荒井 洌著『園をみどりのオアシスへ』フレーベル館</p> <p>〈参考書〉  ○荒井 洌著『ファミリー・サポートの保育園』明治図書</p>

授業科目

■ 比較（国際）福祉特論

担当教員	川村 匡由
開講期	1、2年次 前期
単位	2
学修目標	各国の社会保障を比較し、わが国の課題を提起する。
講義の内容 (基本的枠組)	国連など国際機関の役割や先進国、新興国、途上国の社会保障・社会福祉の比較研究を行う。
授業計画	<p>【第1回】 本科目の履修の動機と自己紹介</p> <p>【第2回】 国家社会保障・社会福祉から国際社会保障・社会福祉へ</p> <p>【第3回】 国連など国際機関の役割</p> <p>【第4回】 N G Oなど国際民間機関の役割</p> <p>【第5回】 先進国・新興国・途上国の現状</p> <p>【第6回】 グローバリゼーションとナショナリズム</p> <p>【第7回】 これからの国際関係と日本</p> <p>【第8回】 社会保障・社会福祉の国際比較①</p> <p>【第9回】 社会保障・社会福祉の国際比較②</p> <p>【第10回】 社会保障・社会福祉の国際比較③</p> <p>【第11回】 社会保障・社会福祉の国際比較④</p> <p>【第12回】 社会保障・社会福祉の国際比較⑤</p> <p>【第13回】 フリートーキング①</p> <p>【第14回】 フリートーキング②</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	国際関係に常に関心を持って臨んでほしい。
評価の方法	基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点
テキスト・参考書	川村匡由編著・国際社会福祉論・ミネルヴァ書房

授業科目

■ 福祉心理特論

担当教員	大野 俊和
開講期	1、2年次 後期
単位	2
学修目標	福祉心理学の概要を学ぶとともに、当該領域の研究論文を読み、重要情報の読み取り方、レジュメの作成方法を学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	福祉心理学はきわめて新しい学問である。そのため、この学問は統一したメタ理論や問題意識をもっておらず、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の知見を寄せ集めた段階である。そのため、本講義では、発達心理学、認知心理学、社会心理学での関連基本概念を紹介した後に、社会福祉と結びついた個々の研究例を紹介していく予定である。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第3回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第4回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第5回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第6回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第7回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第8回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第9回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第10回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学</p> <p>【第11回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第12回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第13回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第14回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	
評価の方法	授業内コメント30点、授業内レジュメ50点、レポート20点
テキスト・参考書	授業内で適宜指示する。

授業科目

■ 福祉サービス市場特論

担当教員	瓜巢 一美
開講期	1、2年次 前期
単位	2
学修目標	福祉サービス市場の中でも、高齢者サービス市場は介護保険制度が2000年に発足し非営利団体、民間事業者によるサービス供給はめざましいものがある。また、介護サービス以外の健常高齢者向けサービスも大きな市場成長が見込まれる。この点について学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉事業経営の歴史</li> <li>2. 世界の先進国におけるシルバーサービスの歴史</li> <li>3. 福祉事業経営の現状 (まちづくり、フィットネスクラブ、カルチャーセンター、在宅介護、高齢者住宅、有料老人ホーム)</li> <li>4. 福祉事業経営の将来</li> </ol>
授業計画	<p>【第1回】福祉事業経営の歴史 (その1)</p> <p>【第2回】福祉事業経営の歴史 (その1)</p> <p>【第3回】福祉事業経営の歴史 (その2)</p> <p>【第4回】福祉事業経営の歴史 (その2)</p> <p>【第5回】世界の先進国におけるシルバーサービスの歴史</p> <p>【第6回】世界の先進国におけるシルバーサービスの歴史</p> <p>【第7回】福祉事業経営の現状 (シルバーサービスの現状)</p> <p>【第8回】福祉事業経営の現状 (シルバーサービスの現状)</p> <p>【第9回】福祉事業経営の現状 (高齢者に対応したまちづくり)</p> <p>【第10回】福祉事業経営の現状 (介護サービスの現状)</p> <p>【第11回】福祉事業経営の現状 (高齢者住宅の現状)</p> <p>【第12回】福祉事業経営の現状 (高齢者住宅の事例)</p> <p>【第13回】福祉事業経営の現状 (有料老人ホームの現状)</p> <p>【第14回】福祉事業経営の現状 (有料老人ホームの事例)</p> <p>【第15回】福祉事業経営の将来 (シルバーサービスの将来)</p>
受講生への要望	民間のシルバーサービスの歴史は浅く、専門的分野の領域のように思われているが、福祉事業分野で民間事業者のウエイトが拡大しているため重要な授業科目である。
評価の方法	講義の受講とディスカッションへの参加、及びテストでのレポートの提出による評価
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業テーマに基づく教材を提供する</li> <li>・『民間活力とシルバーサービス』 吉田 隆幸著 中央法規出版</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『シルバーウエルビジネス』 総合ユニコム</li> <li>・『日経ヘルスケア21』 日経B P社</li> </ul>

授業科目

社会調査特論 I

担当教員	大野 俊和 ・ 白石 憲一
開講期	1 年次
単位	1 (必修)
学修目標	自身の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題について記述し、説明できる。また自身の実践やサービスの質について適切な科学的分析手法を用いて評価し、考察を発表できる。
講義の内容 (基本的枠組)	自分自身の実践について、実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための方法を学習する。また、サービスの質の向上のため科学的な分析手法に基づいて実践的な評価を行う。
授業計画	<p>【第 1 回】 イントロダクション (①②③該当) (大野) (白石) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第 2 回】 実践の記録・言語化の意義と方法 (1) (講義) (①該当) (大野) KJ 法、GTA の紹介、インタビュー調査での質問項目の選定、インタビューの人数・回数の設定</p> <p>【第 3 回】 実践の記録・言語化の意義と方法 (2) (講義) (①該当) (大野) インタビューの構成と傾聴の技法、逐語録の作成</p> <p>【第 4 回】 実践の記録・言語化の意義と方法 (3) (講義) (①該当) (大野) 言語データのコーディング、カテゴリーの作成、統合、結果の図式化・文章化</p> <p>【第 5 回】 実践の評価と検証の意義と方法 (1) (講義) (②該当) (大野) (白石) 実践の記録・言語化の手法を適用する過程を事例研究で講義形式で学習する。</p> <p>【第 6 回】 実践の評価と検証の意義と方法 (2) (演習) (②該当) (大野) (白石) 演習課題もしくは自分自身の実践を題材に、実践の記録・言語化の手法を用いて客観的に記述・言語化させ、実践的な検証・評価を行う</p> <p>【第 7 回】 プレゼンテーション (受講者からの発表) (1) (演習) (③該当) (白石) 各自で行った分析・評価結果を発表してもらい、課題と改善点について討論形式で学習する。</p> <p>【第 8 回】 プレゼンテーション (受講者からの発表) (2) (演習) (③該当) (白石) 各自で行った分析・評価結果を発表してもらい、課題と改善点について討論形式で学習する。</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会「社会調査の基礎」(中央法規出版)

授業科目

社会調査特論Ⅱ

担当教員	大野 俊和 ・ 白石 憲一
開講期	1 年次
単位	1 (必修)
学修目標	自身の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題について記述し、説明できる。また自身の実践やサービスの質について適切な科学的分析手法を用いて評価し、考察を発表できる。
講義の内容 (基本的枠組)	自分自身の実践について、実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための方法を学習する。また、サービスの質の向上のため科学的な分析手法に基づいて実践的な評価を行う。
授業計画	<p>【第 1 回】 イントロダクション (①②③該当) (大野) (白石) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第 2 回】 KJ 法による言語データの内容分析 (1) (演習) (①該当) (大野) 資料から分析単位での切り出し、単語一覧表の作成</p> <p>【第 3 回】 KJ 法による言語データの内容分析 (2) (演習) (①該当) (大野) 変数・カテゴリーの定義、コーディングの作成</p> <p>【第 4 回】 KJ 法による言語データの内容分析 (3) (演習) (①該当) (大野) カテゴリーの集約・統合、信頼性の確認</p> <p>【第 5 回】 KJ 法による言語データの内容分析 (4) (演習) (①該当) (大野) 結果の図式化、文章化</p> <p>【第 6 回】 各自の課題に応じた研究指導 (演習) (②該当) (白石) 各自の課題を題材に、KJ 法による言語データの内容分析を行ってもらおう。受講生が円滑に演習に取り組めるよう、必要に応じて適宜教員による指導を行っていく。</p> <p>【第 7 回】 受講生による実践の評価と検証の報告 (演習) (②該当) (白石) 各自で行った KJ 法による分析・評価結果を発表してもらい、課題と改善点について討論形式で学習する。</p> <p>【第 8 回】 プレゼンテーション (受講者からの発表) (演習) (③該当) (白石) 各自で行った KJ 法による分析・評価結果をプレゼン形式で発表してもらい、効果的なプレゼンテーションを行っていくうえで必要な技法を演習形式で学習する。</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会「社会調査の基礎」(中央法規出版)



授業科目

社会福祉経営研究・演習

担当教員	中熊 靖
開講期	1年次
単位	2 (必修)
学修目標	社会福祉経営特論と相俟って、社会福祉経営論の具体的内容を文献及び実例などにより明らかにし、履修者が社会福祉経営論の理論と実際を修得することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	①社会福祉経営論と運営論の対比において、経営論の今日的意義について学習する。 ②マネジメントについてP.F. ドラッカーの理論を中心に学ぶ。 ③社会福祉事業をめぐる制度のあり方と経営環境の変化について理解する。 ④社会福祉事業を担う各種法人の性格と公益法人制度改革について学習する。 ⑤履修する各人が関心を持つ事業について、その経営実態とあるべき姿を探求する。
授業計画	【第1回～第5回】 三浦理論と古川理論を中心に、社会福祉事業の経営と運営をめぐる論点を整理し、その今日的意義を探る。参考文献を読んで各人が自分のとらえ方を発表し相互討議を行う。 【第6回～第10回】 P.F. ドラッカーのマネジメントに関する著書を分担して読み、マネジメントの本質を理解する。 【第11回～第15回】 高齢者福祉、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、子ども家庭福祉等福祉の各分野の制度を整理し、それぞれの事業経営環境の変化を理解する。 【第16回～第18回】 社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人や民間企業等社会福祉事業を担う各種法人の特性を理解する。特に、公益法人制度改革の意義について理解する。 【第19回～第30回】 各人が選択する社会福祉事業について、その歴史と具体的事例の経営実態を調査し、あるべき姿を探求する。それぞれの研究の進捗状況に応じて中間報告と最終報告を行う。
受講生への要望	指定の文献・資料について事前学習を期待したい。
評価の方法	出席状況30%、演習での発表や学習態度20%、学年末のレポート50%を目途に評価する。
テキスト・参考書	参考図書 ①「社会福祉経営論序説」三浦文夫 碩文社 ②「社会福祉の運営」古川孝順 有斐閣コンパクト ③「マネジメント」P.F. ドラッカー ダイヤモンド社 ④「ゼミナール経営学入門」伊丹敬之、加護野忠男 日本経済新聞社出版社

授業科目

■ 福祉事業経営特論（内容変更の場合あり）

担当教員	
開講期	1年次 後期
単位	2
学修目標	福祉事業を担う民間事業者の動きは本格的にはまだ20年程の浅い歴史的な位置付けであるが、産業としての比重は高い。そこで、福祉事業経営の基本的なコンセプト、リスクマネジメント、運営管理、資金調達等の基本を学ぶ。
講義の内容 (基本的枠組)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉事業経営の変遷</li> <li>2. 行政と福祉事業経営</li> <li>3. 福祉事業経営の労務管理</li> <li>4. 福祉事業の経営実態</li> <li>5. 福祉事業経営とリスクマネジメント</li> <li>6. 福祉事業経営の運営管理</li> <li>7. 福祉事業経営の将来と課題</li> </ol>
授業計画	<p>【第1回】 福祉事業経営の変遷</p> <p>【第2回】 行政と福祉事業経営（予算の決定）</p> <p>【第3回】 行政と福祉事業経営（許認可システム）</p> <p>【第4回】 福祉事業経営の決算書の読み方</p> <p>【第5回】 福祉事業の労務管理</p> <p>【第6回】 民間介護事業における労務管理の現状</p> <p>【第7回】 在宅介護事業の経営実態、特別養護老人ホームの経営実態</p> <p>【第8回】 有料老人ホームの経営実態</p> <p>【第9回】 福祉事業経営とリスクマネジメント－Ⅰ</p> <p>【第10回】 福祉事業経営とリスクマネジメント－Ⅱ</p> <p>【第11回】 有料老人ホームの運営管理（コンプライアンス、情報公開、第三者評価）</p> <p>【第12回】 有料老人ホームの目標管理と人事評価・研修</p> <p>【第13回】 福祉事業経営（その他諸問題）</p> <p>【第14回】 福祉事業経営（その他諸問題）</p> <p>【第15回】 福祉事業経営の将来と課題</p>
受講生への要望	講義形式となるが、各講義の中で質問を受けることと、より理解を深めるために、議論の展開を期待します。
評価の方法	講義の受講とディスカッションへの参加、及びテストでのレポートの提出による評価
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回の授業テーマに基づく教材を提供する</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『福祉事業経営特論』 西川 克己著 自由国民社</li> <li>・ 『非営利組織の経営』 ドラッカー著 ダイアモンド社</li> </ul>

授業科目

福祉施設経営特論（内容変更の場合あり）

担当教員	
開講期	1年次 後期
単位	2
学修目標	社会福祉施設の運営から経営への視点転換の背景や経営管理の諸領域について、下記学習計画に基づいて、施設経営の実務視点で講ずることにより、社会福祉施設経営に携わる指導的人材となれるよう、実務的事例を多く用いながら講述する。
講義の内容 (基本的枠組)	社会福祉施設の運営視点が経営視点に変化しなければならない経営環境条件を研究するとともに、社会福祉施設が新しい経営環境のなかでその使命を全うするための経営技法等を研究する。経営と運営の概念上の差異、経営成果としての3S（利用者・職員・経営者の満足）、施設経営と経営倫理、地域社会との連携、経営競争における差別化・ブランド化等契約時代の社会福祉施設が「選ばれる施設」であり続けられるための経営指標、業績管理、組織・労務管理等について、社会福祉施設の運営実態等を参考にしながら、実務的、実践的に研究する。
授業計画	<p>【第1回】 社会福祉施設経営化の要因</p> <p>【第2回】 社会福祉施設のあゆみ及び使命の時代関数性</p> <p>【第3回】 社会福祉施設の種類と機能</p> <p>【第4回】 経営・運営・管理の概念構造</p> <p>【第5回】 社会福祉施設の組織管理</p> <p>【第6回】 社会福祉施設の人事・労務管理</p> <p>【第7回】 社会福祉施設のサービス管理</p> <p>【第8回】 社会福祉施設の危機管理</p> <p>【第9回】 社会福祉施設の安全管理</p> <p>【第10回】 社会福祉施設の情報管理</p> <p>【第11回】 社会福祉施設の戦略管理</p> <p>【第12回】 社会福祉施設の経営とセルフガバナンス</p> <p>【第13回】 社会福祉施設の経営とディスクロージャー</p> <p>【第14回】 社会福祉施設の経営とコンプライアンス</p> <p>【第15回】 社会福祉施設の経営とディスクロージャー</p>
受講生への要望	予習・復習を必ず行うこと
評価の方法	出席20、受講態度10、レポート・試験70
テキスト・参考書	<p>[テキスト]</p> <p>・宇山勝儀著「社会福祉施設経営論」光生館</p> <p>[参考書]</p> <p>・社会福祉六法（新しいもの）</p> <p>・講義時にその都度説明する</p>

授業科目

■ 人事労務管理特論

担当教員	
開講期	1、2年時
単位	2（必修）
学修目標	組織における社会福祉士の業務内容と役割を系統的に説明できること。後進育成の意味を十分に理解し、新人社会福祉士の研修・実習プログラムを作成できること。
講義の内容 (基本的枠組)	後進指導を適切にできるようになるために、自職場において新人の社会福祉士の教育プログラムの立案方法を学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション（講義）(①②③に該当) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第2回】 ソーシャルワーク業務概要（1）(演習) (①に該当) ソーシャルワーク業務の方法と手順を解説し、自組織（学生もしくは教員）におけるソーシャルワーク業務の現状をグループで討議する。</p> <p>【第3回】 ソーシャルワーク業務概要（2）(演習) (①に該当) ソーシャルワーク業務の方法と手順を解説し、自組織（学生もしくは教員）におけるソーシャルワーク業務の課題・改善点をグループで討議する。</p> <p>【第4回】 実習プログラミング（1）(演習) (②に該当) 実習プログラム作成の方法と手順を解説し、受講生に指定の用紙で実習プログラムを作成させる。</p> <p>【第5回】 実習プログラミング（2）(演習) (②に該当) 受講生が作成した実習プログラムをもとに、グループでその実習プログラムの課題点を討議する。最後に教員による解説を行う。</p> <p>【第6回】 実習スーパービジョン（1）(講義) (③に該当) スーパービジョンの方法と手順を解説する。</p> <p>【第7回】 実習スーパービジョン（2）(演習) (③に該当) 事例のスーパービジョンの会話を題材に、グループで課題点を討議する。</p> <p>【第8回】 実習スーパービジョン（3）(講義) (演習) (③に該当) グループで討議した課題点について、教員による解説を行う</p> <p>【第9回】 人事管理の基本的事項の概説（該当なし）</p> <p>【第10回】 労働契約法のあらまし（該当なし）</p> <p>【第11回】 労働組合法のあらまし（該当なし）</p> <p>【第12回】 労働基準法のあらまし（該当なし）</p> <p>【第13回】 労働関係調整法のあらまし（該当なし）</p> <p>【第14回】 労働関係判例の動向（該当なし）</p> <p>【第15回】 群馬県における労働争議と群馬県労働委員会取扱事例の概要と研究（該当なし）</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

福祉事業経営研究・演習（内容変更の場合あり）

担当教員	
開講期	1、2年次 前期・後期
単位	2
学修目標	福祉事業経営における市場分析の基礎知識としてアメリカのエイジレスマーケット書を学ぶ。次に具体的福祉事業経営の事例を前橋市内の事業者を見学する事によって学ぶ。最後に事業を立ち上げるスタディーを試みる。
講義の内容 (基本的枠組)	1. エイジレスマーケット書を学ぶ 2. シルバーサービス調査（前橋市内、各シルバーサービス事業者を見学） 3. シルバーサービス事業立上げのポイント演習（市場分析、事業収支作成）
授業計画	<p>【第1回】 エイジレスマーケット（第1部、第1章）  【第2回】 エイジレスマーケット（第1部、第2章）  【第3回】 エイジレスマーケット（第1部、第3章）  【第4回】 エイジレスマーケット（第2部、第4章）  【第5回】 エイジレスマーケット（第2部、第5章）  【第6回】 エイジレスマーケット（第2部、第6章）  【第7回】 エイジレスマーケット（第3部、第7章）  【第8回】 エイジレスマーケット（第3部、第8章）  【第9回】 エイジレスマーケット（第4部、第9章）  【第10回】 エイジレスマーケット（第4部、第10章）  【第11回】 エイジレスマーケット（第4部、第11章）  【第12回】 エイジレスマーケット（まとめ）  【第13回】 シルバーサービス調査（進め方）  【第14回】 シルバーサービス調査（カルチャーセンター）  【第15回】 シルバーサービス調査（カルチャーセンター）  【第16回】 シルバーサービス調査（フィットネスセンター）  【第17回】 シルバーサービス調査（フィットネスセンター）  【第18回】 シルバーサービス調査（在宅サービス事業者）  【第19回】 シルバーサービス調査（在宅サービス事業者）  【第20回】 シルバーサービス調査（有料老人ホーム）  【第21回】 シルバーサービス調査（有料老人ホーム）  【第22回】 シルバーサービス調査（訪問看護・老人保健施設）  【第23回】 シルバーサービス調査（訪問看護・老人保健施設）  【第24回】 シルバーサービス調査（特別養護老人ホーム）  【第25回】 シルバーサービス調査（特別養護老人ホーム）  【第26回】 シルバーサービス調査（非営利団体事業）  【第27回】 シルバーサービス調査（非営利団体事業）  【第28回】 前橋市内における福祉事業起業化スタディー  【第29回】 前橋市内における福祉事業起業化スタディー  【第30回】 まとめ</p>
受講生への要望	演習を通じて福祉事業経営の市場分析の基本を学ぶと共に、事例見学、調査を通し事業立上げ計画スタディーまで挑戦してほしい。
評価の方法	エイジレスマーケットでは、書の内容解説レポート提出と議論によって理解を深めると共に、調査でも質問状、報告レポート作成によって福祉事業経営を理解する事につながる事に重点をおく。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】  『エイジレスマーケット』 デビッド・B・ウルフ著 1996年中央法規出版  【参考書】  『シルバーウエルビジネス』 総合ユニコム  『日経ヘルスケア21』 日経BP社</p>

授業科目

地域福祉経営特論

担当教員	笹澤 武
開講期	1年次
単位	2
学修目標	地域包括ケアを理解し、さらに地域包括支援センター等における支援内容や支援方法を理解することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域包括ケアや地域包括支援センターの支援について学習し、地域における支援の実際について学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション (講義) (①②③該当) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第2回】 地域包括ケアの仕組み・方法論 (講義) (①該当) 厚生労働省「地域包括ケア推進指導者養成研修」等の資料や、群馬県下市町村の特徴ある地域包括支援センターを事例に、地域包括ケアの仕組み・方法論について講義形式で学習する。</p> <p>【第3回】 地域包括ケアの事例研究 (演習) (①該当) 中核都市である前橋市の地域包括支援センターを訪問し、「保健・医療・福祉の連携」についての計画や実践の実情を、受講生が各自の疑問点や問題意識に基づいて、地域包括ケアの現状をどう認識しているかを討論形式で演習を行う。</p> <p>【第4回】 地域包括支援センターの現状と課題 (講義) (②該当) 藤岡市の一部の地域は以前から過疎的な現象を抱えていたが、2006年1月1日付の、過疎である鬼石町との合併により、尚一層の少子高齢化問題や限界集落問題を抱えることになってしまった。こうした状況下で、地域包括支援センターを中心とする包括ケアとしては、どのような支援及びケアプランが必要かつ可能であるか、またそれは、財源的にも「生活の質」の保障からも、格差のないサービスが確保されているかどうか、などについての現状と課題について講義形式で学習する。</p> <p>【第5回】 地域包括支援センターの支援の事例研究 (演習) (②該当) 藤岡市包括支援センターを訪問し、総合相談支援の対応方法を学んだり、講師が藤岡市情報公開・個人情報保護審査委員をしている立場から、権利擁護の分野で多発している成年後見人問題や虐待の早期発見とその予防等を討論形式で演習を行う。</p> <p>【第6回】 他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題 (講義) (③該当) 県下市町村の地域包括支援センターが、住民と行政と関係機関の協働でのネットワークをどう構築し、地域支援や個別支援ニーズにどう応えているかを取り上げたい。その他に、国の補助金や行政、JA、地元商工会議所や商工会、銀行等の支援による高齢者が中心の「農産物直売所」は、高齢者のための雇用の場の確保、農産物出荷者の孤独化阻止、仲間づくり、健康づくり、高齢者自身の自尊維持等の、収入以外の効用が大きい。「福祉のまちづくり」ではなく「福祉でまちづくり」の事例を講義形式で学習する。</p> <p>【第7回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究 (演習) (③該当) 受講生が講義や演習で学んできたことが、「地域包括ケア」や「地域包括支援センター」の役割である「実態把握」や「介護保険事業」等とどのように関連し、高齢者の日常生活にどう生かされているかをもう一度検討する。そのために、群馬県社会福祉協議会や「地域における質的な福祉ニーズ把握の実践」(旧・白沢村 2005年2月13日合併)で全国的に話題になった沼田市社会福祉協議会、藤岡市健康福祉部等の職員の方々に参加してもらい、受講生と他職種連携・関係機関のネットワークの現状について討論形式で演習を行う。</p> <p>【第8回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究 (演習) (③該当) 受講生が講義や演習で学んできたことが、「地域包括ケア」や「地域包括支援センター」の役割である「実態把握」や「介護保険事業」等とどのように関連し、高齢者の日常生活にどう生かされているかをもう一度検討する。そのために、群馬県社会福祉協議会や「地域における質的な福祉ニーズ把握の実践」(旧・白沢村 2005年2月13日合併)で全国的に話題になった沼田市社会福祉協議会、藤岡市健康福祉部等の職員の方々に参加してもらい、受講生と他職種連携・関係機関のネットワークの課題について討論形式で演習を行う。</p> <p>【第9回】 地域福祉の概念 (該当なし)</p> <p>【第10回】 地域福祉と地域住民・地域コミュニティ (該当なし)</p> <p>【第11回】 地域福祉と市町村社会福祉協議会 (該当なし)</p> <p>【第12回】 地域福祉と福祉サービス提供民間組織 (該当なし)</p> <p>【第13回】 地域福祉と市町村行政、制度的協議機関 (該当なし)</p> <p>【第14回】 地域福祉と民生委員・児童委員 (該当なし)</p> <p>【第15回】 地域福祉の財源と共同基金 (該当なし)</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

■ 社会福祉行財政特論

担当教員	松浦 勉
開講期	1年次 前期
単位	2
学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や地方自治体のかかえる社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策のあり方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。
講義の内容 (基本的枠組)	最新の厚生労働白書を基本テキストとして、社会福祉行財政をとりまく今日的な課題を読み解いていく。また、自治体や施設など現場の状況を肌で感じることができるよう、具体的な資料にあたるほか見学又はヒアリングの機会を設ける。
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 自治体における社会福祉行財政の実情（事例を通して）</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本的枠組みと現下の課題（1）</p> <p>【第4回】 社会福祉の基本的枠組みと現下の課題（2）</p> <p>【第5回】 厚生労働白書を読む（1）</p> <p>【第6回】 厚生労働白書を読む（2）</p> <p>【第7回】 厚生労働白書を読む（3）</p> <p>【第8回】 厚生労働白書を読む（4）</p> <p>【第9回】 厚生労働白書を読む（5）</p> <p>【第10回】 厚生労働白書を読む（6）</p> <p>【第11回】 厚生労働白書を読む（7）</p> <p>【第12回】 厚生労働白書を読む（8）</p> <p>【第13回】 社会福祉の現場を学ぶ（1）</p> <p>【第14回】 社会福祉の現場を学ぶ（2）</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	自ら調べ、考え、意見を述べ、聴くことで、主体的にかつ相乗的な学習が行えるよう心がけてほしい。
評価の方法	出席点20% 発表、発言等30% レポート50%
テキスト・参考書	平成24年版厚生労働白書、その他講義時に指定する。

授業科目

■ 地域福祉計画特論

担当教員	川村 匡由
開講期	1、2年次 前期
単位	2
学修目標	地域福祉経営としての計画の重要性を理解するまでを到達目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	地域福祉の理論と地域福祉計画の策定・実施・進行管理を実証的に学ぶ。
授業計画	<p>【第1回】 地域福祉の概念の整理</p> <p>【第2回】 地域福祉の動向と課題</p> <p>【第3回】 地域福祉計画の現状</p> <p>【第4回】 地域福祉計画の策定</p> <p>【第5回】 地域福祉計画の進行管理</p> <p>【第6回】 地域福祉計画の事例研究①</p> <p>【第7回】 地域福祉計画の事例研究②</p> <p>【第8回】 地域福祉計画の事例研究③</p> <p>【第9回】 地域福祉計画の事例研究④</p> <p>【第10回】 地域福祉計画の事例研究⑤</p> <p>【第11回】 地域福祉計画の事例研究⑥</p> <p>【第12回】 地域福祉計画の事例研究⑦</p> <p>【第13回】 地域福祉計画の事例研究⑧</p> <p>【第14回】 フリートーキング</p> <p>【第15回】 まとめ</p>
受講生への要望	各市町村や社協の地域福祉計画を入手し、比較研究する。
評価の方法	基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点
テキスト・参考書	川村匡由・地域福祉とソーシャルガバナンス・中央法規



授業科目

■ 地域福祉経営研究・演習

担当教員	笹澤 武
開講期	1、2年次 前期・後期
単位	2
学修目標	地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。
講義の内容 (基本的枠組)	下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。
授業計画	<p>【第1回】 基本講義1 「地域福祉への多角的アプローチ」  【第2回】 基本講義2 「地域福祉の現状と今日的課題」  【第3回】 テーマ講義① 「地域福祉の主要理論の系譜」  【第4回】 テーマ講義② 「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」  【第5回】 ～ 【第8回】  上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等  【第9回】 テーマ講義③ 「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」  【第10回】 テーマ講義④ 「社会福祉の機能、資源の地域配置」  【第11回】 ～ 【第14回】  上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等  【第15回】 自由討議、中間のまとめ  【第16回】 基本講義3 「地方分権と地域福祉行政」  【第17回】 基本講義4 「地域福祉と社会福祉協議会」  【第18回】 テーマ講義⑤ 「地域福祉計画の系譜と課題」  【第19回】 テーマ講義⑥ 「民間組織による地域福祉推進の課題」  【第20回】 ～ 【第23回】  上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等  【第24回】 テーマ講義⑦ 「コミュニティソーシャルワーク」  【第25回】 テーマ講義⑧ 「地域福祉ニーズ、その探求方法」  【第26回】 ～ 【第29回】  上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等  【第30回】 自由討議、まとめ</p>
受講生への要望	基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討議が行えるよう準備すること。
評価の方法	基準：出席点30点、授業態度10点、レポート・発表等60点
テキスト・参考書	<p>[テキスト]  『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法（第2版）』  (中央法規出版、2010年)</p> <p>[参考書]  日本地域福祉学会編『地域福祉事典』（2006年中央法規出版）。  岡村重夫著『地域福祉論』（光生館、1974年）  大橋謙策『地域福祉』（放送大学教育振興会、1999年）  三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』（全国社会福祉協議会、1995年）。  『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』  (全国社会福祉協議会、2008年)</p>

## 授業科目

### ■ ソーシャルワーク特論 I

担当教員	新木 恵一
開講期	1 年次
単位	2 (必修)
学修目標	ソーシャルワークで用いられる援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにさせる。
講義の内容 (基本的枠組)	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。さらに自身の実践の省察を行う。
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション (講義) (①②該当) 講義の全体像について説明する。</p> <p>【第2回】 治療モデル・環境モデル・生活モデル (講義) (演習) (①②該当) 治療モデル・環境モデル・生活モデルについて講義し、治療モデル・環境モデル・生活モデルの着眼点、考え方、介入の違いについて、事例の演習課題に基づいてグループで討議する。</p> <p>【第3回】 ストレングスモデル (講義) (演習) (①②該当) ストレングスモデルについて講義し、利用者の「強さ」に焦点化し、アセスメントし問題解決の方法について、事例の演習課題に基づいてグループで討議する。</p> <p>【第4回】 心理社会的アプローチ (講義) (演習) (①②該当) 心理社会的アプローチについて講義し、事例の演習課題に基づいて、グループで「心理社会的診断」と「暫定的目標の設定」を行い、心理社会的診断の視点と目標の設定方法について学習する。</p> <p>【第5回】 機能的アプローチ (講義) (演習) (①②該当) 機能的アプローチについて講義し、事例の演習課題に基づいて、グループでクライアントの課題・ニーズや機関の機能を明確にし、ニーズとの関係で、機関の機能を個別・具体化する。</p> <p>【第6回】 問題解決アプローチ (講義) (演習) (①②該当) 問題解決アプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより、問題解決アプローチによる相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する</p> <p>【第7回】 危機介入アプローチ (講義) (演習) (①②該当) 危機介入アプローチについて講義し、危機的状況への共感的理解とアセスメントについて、事例の演習課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第8回】 行動変容アプローチ (講義) (演習) (①②該当) 行動変容アプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより、行動変容アプローチによる相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する</p> <p>【第9回】 エンパワメントアプローチ (講義) (演習) (①②該当) エンパワメントアプローチについて講義し、多次元でのアセスメントや多面的な支援、利用者自身がパワーを獲得していく過程を、事例の演習課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第10回】 組織におけるソーシャルワーク (講義) (①該当) 組織におけるソーシャルワークの意義と機能、援助展開過程、理論モデルについて講義する。</p> <p>【第11回】 組織におけるソーシャルワークに関する演習 (演習) (②該当) 事例の演習課題をグループで討議することにより、全体と個の理解、ソーシャルワーカーのはたらきかけについて学ぶ。</p> <p>【第12回】 チームアプローチ (講義) (演習) (①②該当) チームアプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより、チームアプローチによる相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する</p> <p>【第13回】 地域におけるソーシャルワーク (講義) (①該当) 地域におけるソーシャルワークの方法を講義する。</p> <p>【第14回】 地域におけるソーシャルワーク演習 (1) (演習) (②該当) 複数の市町村の地域福祉計画を比較し、大きな違いの理由についてグループで討議する。</p> <p>【第15回】 地域におけるソーシャルワーク演習 (2) (演習) (②該当) 仮想的な課題を設定し、そのために必要な調査の手順や調査票、社会資源マップをグループで作成する。</p>
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。
評価の方法	提出課題の内容により判断する。
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。

授業科目

■ ソーシャルワーク特論Ⅱ

担当教員	高瀬 智津子
開講期	1年次 後期
単位	2
学修目標	1) ソーシャルワーク特論Ⅰで学んだ理論・方法・技術を事例研究で深めること。 2) 実践モデルアプローチの多様性を理解し関心のあるモデルの文献を吟味すること。 3) ソーシャルワークの研究法について学び今後の研究活動に生かすこと。
講義の内容 (基本的枠組)	1) ソーシャルワーク研究の課題と方法 2) ソーシャルワーク事例研究・事例分析 3) 相談援助の実際
授業計画	【第1回】 学術研究と研究成果発表の仕方① 【第2回】 第1回の内容を理解し自分の研究テーマに関連した学術論文を報告する 【第3回】 ソーシャルワーク研究の課題と方法 【第4回】 質的データとして事例研究① 【第5回】 質的データとして事例研究② 【第6回】 高齢者福祉領域の実践理論と方法 【第7回】 高齢者福祉領域の実践事例の検討 【第8回】 児童福祉領域の実践理論と方法 【第9回】 児童福祉領域の実践事例の検討 【第10回】 障害者福祉領域の実践理論と方法 【第11回】 障害者福祉領域の実践事例の検討 【第12回】 その他の福祉領域の実践理論と方法 【第13回】 その他の福祉領域の実践事例の検討 【第14回】 ソーシャルワーク実践の現状と課題 【第15回】 授業の総括
受講生への要望	授業は講義とともにゼミ形式で進めるので指示された文献をよく読み、授業中の討議に積極的に参加すること。また、自分も取り上げる研究課題を絞り、先行研究論文をリストアップし、よく読むこと。
評価の方法	①出席点40% ②レポート60%
テキスト・参考書	テキスト、参考文献は、ソーシャルワーク特論Ⅰと同じ。追加文献として「家族生活研究—家族の景色とその見方—」 宮本みち子、清水新二 2009年3月20日 放送大学教育振興会

授業科目

■ ケアマネジメント特論

担当教員	國光 登志子
開講期	1年次 後期
単位	2
学修目標	複合的なニーズを有する高齢者、障害者、子育て支援ケースなどに対するケアマネジメントの基本的枠組みを理解し、他職種協働のチームケアが求められる実践課題を明らかにする。
講義の内容 (基本的枠組)	ケアマネジメントの基本プロセスを学んだ上で事例演習を行い、ケアマネジメントシステム化への課題について討議する。
授業計画	<p>【第1回】 ケアマネジメントが求められる社会的背景</p> <p>【第2回】 ケアマネジメント発展の系譜</p> <p>【第3回】 ケアマネジメントの基本プロセス</p> <p>【第4回】 ケアマネジメントプロセスの重層的展開</p> <p>【第5回】 アセスメント方法論</p> <p>【第6回】 フォーマル、インフォーマル社会資源</p> <p>【第7回】 利用者、家族の主体形成とケアマネジメント</p> <p>【第8回】 要介護高齢者のケアマネジメント</p> <p>【第9回】 介護予防ケアマネジメント</p> <p>【第10回】 子育て支援のケアマネジメント</p> <p>【第11回】 精神障害者のケアマネジメント</p> <p>【第12回】 知的障害者のケアマネジメント</p> <p>【第13回】 低所得者のケアマネジメント</p> <p>【第14回】 マイノリティ住民に対するケアマネジメント</p> <p>【第15回】 ケアマネジメントの普遍的課題</p>
受講生への要望	事前学習を前提とし、学習課題に対して討議に参加し、質問や意見を積極的に述べること
評価の方法	授業への出席20%、討議への参加度30%、レポート提出50%
テキスト・参考書	<p>テキスト</p> <p>「対人援助職を目指す人のケアマネジメント Learning 10」 太田貞司、國光登志子 (株)みらい</p> <p>参考書</p> <p>「実務に役立つケアマネジメントハンドブック」國光登志子 中央法規 「四訂 居宅サービス計画作成の手引き」財団法人 長寿社会開発センター</p>

授業科目

■ ソーシャルワーク研究・演習

担当教員	高瀬 智津子
開講期	1・2年次 前期・後期
単位	2
学修目標	1) ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2) ソーシャルワーク研究方法についてもさらに広く深く学ぶ。 3) 英語の論文が正確に読解出来るようにする。
講義の内容 (基本的枠組)	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容をさらに深く理解するためにソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み吟味する。
授業計画	<p>【第1回】 受験生の研究テーマ・関心と研究報告の方法等について話し合う</p> <p>【第2回】 基本的文献と研究課題の論文の検索法</p> <p>【第3回】 研究の進め方と研究成果発表の仕方</p> <p>【第4回】 ソーシャルワーク研究の課題と方法</p> <p>【第5回】 事例研究法の学習①</p> <p>【第6回】 同上 ②</p> <p>【第7回】 受講生の研究課題の先行研究論文の報告と討議①</p> <p>【第8回】 同上 ②</p> <p>【第9回】 同上 ③</p> <p>【第10回】 同上 ④</p> <p>【第11回】 同上 ⑤</p> <p>【第12回】 同上 ⑥</p> <p>【第13回】 同上 ⑦</p> <p>【第14回】 同上 ⑧</p> <p>【第15回】 前期授業の総括</p> <p>【第16回】 Encyclopedia of Social Work ターナーの論文の分担翻訳・報告①</p> <p>【第17回】 同上 ②</p> <p>【第18回】 同上 ③</p> <p>【第19回】 受講生の研究課題の先行論文の報告と討論⑨</p> <p>【第20回】 同上 ⑩</p> <p>【第21回】 同上 ⑪</p> <p>【第22回】 同上 ⑫</p> <p>【第23回】 同上 ⑬</p> <p>【第24回】 同上 ⑭</p> <p>【第25回】 同上 ⑮</p> <p>【第26回】 同上 ⑯</p> <p>【第27回】 同上 ⑰</p> <p>【第28回】 同上 ⑱</p> <p>【第29回】 同上 ⑲</p> <p>【第30回】 後期授業の総括</p>
受講生への要望	この授業はゼミ形式で進めるので十分事前準備をして授業に出席すること。また、授業受講生への要望中の討議に積極的に参加すること。
評価の方法	①出席点50% ②レポート50%
テキスト・参考書	<p>テキスト：国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)ポリシーペーパー[国際方針文書] 日本ソーシャルワーカー協会分担執筆 2011年1月 (日英両文)</p> <p>参考文献：田垣正晋著「これからはじめる医療・福祉の質的研究入門」 中央法規出版 2008年 上記書を使用する。</p> <p>その他読むべき文献は開講時に提示する。また各自が報告する論文等は必要に応じて用意する。</p>

## 修士論文研究指導の概要

中 田 勝	<p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。</p> <p>福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。</p> <p>高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。</p> <p>我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p>
鈴木 利定・中田 勝	<p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。</p> <p>今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p>
荒井 洵	<p>福祉的視点からする幼児保育の検討課題についての研究</p> <p>日本における幼児保育サービスは、今や一般的なものとして定着した観があります。さらに、そのハード面およびソフト面には、概ね共通したスタイルが見られるようになりました。</p> <p>しかし、ものごとのありようは、常に、より望ましい理念とスタイルとを追究していくのが本来であり、比較保育論的視角からすると、なおのこと改良すべき点が見えてもきます。</p> <p>このような姿勢で、幼児保育についてのテーマを見い出し、ユニークな研究をしていくことが出来たらと思います。</p> <p>例として、次のようなテーマが考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然環境としての園庭のあり方</li> <li>2. 居住性から見た園舎のデザイン</li> <li>3. 人間論的視点からする保育内容のあり方</li> <li>4. 保護者にとっての、サロンとしての園</li> <li>5. 保育者にとっての、働く場としての園 等々</li> </ol>

<p>笹澤 武</p>	<p>2000年に成立した社会福祉法は、これまでの国や行政を中心とした、いわゆる福祉サービス供給サイドからの措置行政であったものを、利用者サイドからの福祉サービス体系に転換することを目的とするものであった。特に、この中の第4条（地域福祉の推進）と第107条（市町村地域福祉計画）は、地方分権一括法の施行に関連して、地域住民が抱えている様々な生活問題や複雑化・高度化する福祉ニーズに対して、適切な利用促進等の「身近な福祉」を目的としたものである。研究指導では、地域福祉活動に対して積極的な住民参加を促進したり、都道府県や市区町村の福祉に関するユニークな事例を実態調査し分析して多面的・多角的側面から研究する。院生は常に問題意識を持って論文作成に臨んでもらいたい。</p> <p>修士論文は修士1年4月から論文の書き方も踏まえて、個人指導を計画的に実施する。</p>
<p>大野 俊和</p>	<p>修士1年4月から毎週、週1回90分程度の院ゼミミーティングに参加できることを条件とする。</p> <p>その際、他の大学院生による進捗報告と研究報告があるがすべてに出席すること。</p> <p>4月の面談を通じて、教員との話し合いの中で論文テーマを決定する。希望者の関心領域が心理学や社会学に近く、定量データを用いた実証的研究に関するものであることが望ましい。各自アサインされた課題の発表と関連論文の発表を行っていくことになる。なお、修士1年から修士論文発表会での発表と修士1年3月の段階でのミニ修士論文の提出を義務とする。</p>